

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)

ホルモン受容機構異常に関する調査研究

分担研究報告書

副甲状腺機能低下症の検討

研究分担者 井上 大輔 帝京大学ちば総合医療センター 教授

研究分担者 岡崎 亮 帝京大学ちば総合医療センター 教授

研究要旨:低カルシウム血症性疾患の実態を明らかにするために、副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、偽性偽性副甲状腺機能低下症、progressive osseous heteroplasia、および acrodysostosis の患者の現況につき、全国アンケート調査を行った。

A. 研究目的

偽性副甲状腺機能低下症は 30 年前に診断基準が作成されたが、他の病型(類縁疾患)でも PTH 不応性があることが報告され、診断基準の見直しが必要である。また、本研究班では、副甲状腺機能低下症の鑑別診断となるビタミン D 不足・欠乏の判定基準等を作成してきたが、最近、副甲状腺機能低下症に関しては新知見が報告されている。そこで患者の現況調査と最新の知見に基づき、病型分類、診断法を見直す。

B. 研究方法

疫学班のマニュアルに従い抽出した全国の病院 3,501 科に対し、該当患者が存在するか否かの一次調査、存在する場合は、より詳細な臨床像を質問する二次調査を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は千葉大学の倫理委員会の承認のもと行った。

C. 研究結果

一次調査では、副甲状腺機能低下症 704 名、偽性副甲状腺機能低下症 478 名が集計された。この患者数と対象施設抽出率から、推定患者

数は副甲状腺機能低下症 2,304 名(95%信頼区間 1,189 名~3,419 名)、偽性副甲状腺機能低下症 1,484 名(1,143 名~1,825 名)と推計された。

D. 考察

1998 年の全国調査では、副甲状腺機能低下症約 900 例、偽性副甲状腺機能低下症約 400 例が集計されている。今回の一次調査は、あくまで主治医判断での診断に基づいている。今後二次調査の結果の解析をふまえ、これらの疾患の現状の臨床像を明らかにしていく必要がある。

E. 結論

全国アンケート調査により、我が国ではそれぞれ 1,000~2,000 名の副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症患者が存在するものと推定された。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
なし

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

3.その他

1. 特許取得

特記事項なし